

# 手順書: 栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連

## 18. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入(1)(2)

### 【特定行為の概要】

医師の指示の下、手順書により、身体所見(末梢血管の状態に基づく末梢静脈点滴実施の困難さ、食事摂取量等)及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、超音波検査において穿刺静脈を選択し、経皮的に肘静脈又は上腕静脈を穿刺し、末梢留置型中心静脈注射用カテーテル(PICC)の挿入する

### 【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

- ☐ 末梢静脈ラインの確保が困難である患者
- ☐ 末梢静脈ラインの確保による血管外漏出、静脈炎がある患者
- ☐ 中心静脈ラインでのみ投与可能な薬剤の使用が考慮される患者



### 【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- ☐ 意識状態、バイタルサインに異常がない
- ☐ 出血傾向がない
- ☐ 超音波にて安全に実施可能な穿刺静脈が確認される

病状の  
範囲外

不安定  
緊急性あり

担当医師に直接連絡



病状の  
範囲内

安定  
緊急性なし



### 【診療の補助の内容】

- ☐ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入
  - ・手術や集中治療が必要な患者で、十分なモニタリングと対応ができる環境下で行う。
  - ・エコーを使用し、尺側皮静脈・正中皮静脈・橈側皮静脈等の走行や太さを確認する。
  - ・穿刺部位が決定したら、穿刺部位から鎖骨頭の距離と鎖骨頭から第3肋骨までの距離を測定し、挿入距離とする
  - ・ポピドンヨードやクロルヘキシジンにて消毒する
  - ・エコープローブにゼリーを塗り、清潔なプローブカバーを装着する
  - ・上腕を駆血し、エコープローブにゼリーを塗り穿刺する静脈を確認する
  - ・穿刺部位の周辺を局所麻酔する(1%キシロカインを使用)
  - ・静脈を確認しながら、エコーを短軸に描写し、穿刺する
  - ・外筒を挿入し、内筒を抜去する
  - ・外筒へガイドワイヤーを挿入し(測定したカテーテルの挿入距離まで挿入)、外筒を抜去する
  - ・ダイレーターを使用し、穿刺部位を拡張する
  - ・ガイドワイヤーに沿って PICC 計測した挿入距離まで挿入する
  - ・カテーテルからの逆血を確認し、ヘパリン生食をカテーテルに通しておく
  - ・カテーテルを絹糸で固定する
  - ・胸部レントゲンにてカテーテルの先端を確認する



### 【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 意識状態の変化        | <input type="checkbox"/> バイタルサインの変化         |
| <input type="checkbox"/> 出血の有無          | <input type="checkbox"/> ガイドワイヤーによる不整脈出現の有無 |
| <input type="checkbox"/> 皮下気腫の有無        | <input type="checkbox"/> 神経症状の有無            |
| <input type="checkbox"/> 穿刺後の末梢組織の虚血の有無 |   |
| <input type="checkbox"/> 穿刺部位の感染徴候      | <input type="checkbox"/> カテーテルの位置異常         |

<確認事項>

異常・緊急性あり

担当医師に直接連絡



### 【医療の安全を確保するために医師又は歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

- ☐ 担当医師に直接連絡する



### 【特定行為を行った後の医師又は歯科医師に対する報告の方法】

- ☐ 担当医師に直接連絡する
- ☐ 特定行為の実施を診療録に記載する